

# 東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～

・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体

発行責任者 小野寺 憲治

文 責 佐々木 正道

発行日 平成29年6月26日

## やる気と挑戦

東陽中学校長 小野寺 憲治

生徒のみなさんは、直面する毎日の勉強や部活動、友達との友好的人間関係づくりなど、一生懸命に取り組んでいます。しかしその反面、「数学の√（ルート）を学んで将来何の役に立つの?」、「何であの子と仲良くしなきゃならないの?」などという声が聞こえてくることもあります。みなさんが、今一生懸命取り組んでいることが、将来どんな場面で生かされるのでしょうか。

それは結論から言うと、将来、大人になったり、父や母になったときに困らないためだと考えます。

当たり前のことですが、中学校の3年間は、人の成長において大きな意味をもっている時期だと言えます。人の発育・発達論から簡潔に述べると、13歳になる中学1年生は、以前までの児童から「生徒」と呼ばれ、大人への入り口の時期です。14歳になる中学2年生は、自我（自分自身や他の人に対する意識）が目覚め、一段と大人に向かうための心の成長が現れる時期です。15歳になる中学3年生は、第2次反抗期が現れ、社会的正義感も強くなる時期でもあります。これらには個人差がありますから、誰もがこの年齢において絶対に起こるというものではなく、早く訪れる子、遅く訪れる子、期間が短い子、期間が長い子等、発現の時期や期間は人によって違います。

また、その内容も個人差があります。私は中学2年生の頃に、反抗期が訪れました。「父母や周囲の人に対しても何かにつけて怒った気持ちになっている」と感じ、行動としては、「部屋に閉じこもり音楽を聴いたり、家族と話をしたり接する時間を極端に少なくした」ことを思い出します。「これが反抗期なんだ!」と自覚できたこともありました。早いか遅いかは個々に異なりますが、遅れてでもやってこない大変なことになるとも言われています。つまり大なり小なりあったほうがよいということです。生徒の皆さんには自覚はありますか?

また、生徒のみなさんは、勉強のこと、部活動のこと、友達のこと、家族のこと、将来のこと、等々たくさん悩むことがあります。この不安や悩みは、どうして思春期と呼ばれる中学生期に発現するのでしょうか。それは、単純に大人に近づいているからです。

大人の社会は非常に複雑です。いろいろなことが交錯（いくつものものがまじりあうこと）しながら成り立っていることから、言葉では簡単には表せないのです。時としてやっかいなものもたくさんあります。このやっかひさに立ち向かっていくために、この時期に力を付けておきたい、「やる気」をだして「挑戦」し、さらに引き出し（いろいろなもの見方、考え方、対処法など）を多く作ることが大人になって困らないことにつながると思います。

この引き出しは、人によって、色も違えば、形も大きさも、容量も違います。この引き出しは、間違いや失敗の経験の産物でもあります。ですから、今の時期でなければできないいろいろなことに挑戦し、貴重な引き出しをたくさんつくってほしいと思います。

引き出しづくりには、一人一人の「やる気と挑戦しようとする元気」があればいくらでもつくれると思います。皆さんのやる気と挑戦に期待します。

人生の先輩である保護者の皆様にもこうした疑問にお子さんと向き合い折に触れてご家族でお話してみてはいかがでしょうか。それがお子さんにとって一つの引き出しづくりのヒントになるかも知れません。